

アートクリフ仕上げ  
施工の手引き

適用品番

ジョリパットインフィニティー      JQ-500シリーズ

【初版】平成24年 4月

アイカ工業株式会社  
化成品カンパニー

< 使用材料 >

材料	商品名	概要	荷姿	標準施工面積
シーラー	ジョリパットシーラー JS-410	1液溶剤系 アクリコ <sup>®</sup> ム系シーラー	15kg/缶	約75~100 m <sup>2</sup>
	セーフシーラー JS-800	1液水系珪砂シーラー	16kg/缶	約80~106 m <sup>2</sup>
主材	ジョリパットインフィニティ シリーズ 標準色 JQ-500T (色番号) (...数字) 特注色 JQ-500 (色番号) (...英字、...数字)	アクリル共重合樹脂 水性仕上げ塗材	20kg/ 缶	約9 m <sup>2</sup>
骨材	JF-1 JF-5	寒水石(白竜) 1厘 寒水石(白竜) 5厘	20kg/袋入り 20kg/袋入り	約32 m <sup>2</sup> 約32 m <sup>2</sup>

セーフシーラー JS-800 は2kg×2個セットもございます。使用する面積によってはこちらをご使用いただくことを推奨致します。(施工面積目安：約20~25 m<sup>2</sup>/セット)

使用する下地に適合したシーラーをご使用下さい。詳しくは各シーラーの説明書または最寄のアイカ工業(株)各支店にお問い合わせ下さい。

< 主な施工道具 >

- ・リシガン 口径 4~6 mm
- ・タイルガン 口径 8 mm
- ・スチロールゴテ (発泡スチロールでも可)
- ・仕上げゴテ (ステンレス製の腰の柔らかいもの)
- ・コンプレッサー 2.2 kW(3馬力)以上 (1台使用の場合)

< 下地調整 >

モルタル金ゴテ押さえ (平滑) など

<アートクリフ仕上げ施工方法>

1. シーラー塗布

・JS-410の場合

配 合	J S - 4 1 0	1 5 k g
塗 布 量	0 . 1 5 ~ 0 . 2 k g / m <sup>2</sup>	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

・JS-800の場合

配 合	J S - 8 0 0	1 5 k g
塗 布 量	0 . 1 5 ~ 0 . 2 k g / m <sup>2</sup>	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

下地、主材に応じた最適なシーラーを選定して下さい。  
3時間以上48時間以内

2. 主材 下吹き

配 合	JQ 500シーズ	20kg
	清 水	2 <sup>リットル</sup>
塗 布 量	0 . 9 k g / m <sup>2</sup>	
吹 圧 力	5 ~ 7 k g f / cm <sup>2</sup> (0.51 ~ 0.71MPa)	
施工道具	リシンガン 口径 4 ~ 6 mm	

夏期 4時間以上  
冬期 12時間以上  
乾燥を確認後、次工程に移って下さい。

3. 主材 上吹き

配 合	JQ 500シーズ	20kg
	寒水石 1厘	10kg
	寒水石 5厘	10kg
	清 水	2 ~ 3 <sup>リットル</sup>
塗 布 量	約 2 . 5 k g / m <sup>2</sup>	
吹 圧 力	5 ~ 7 k g f / cm <sup>2</sup> (0.51 ~ 0.71MPa)	
施工道具	タイルガン 口径 8 mm	
	粒状に詰めて吹きつけてください。	

追いかけて (5分以内)

4. パターン付け

・スチロールゴテを横方向に動かし、部分的に寒水石が 転がった跡をつけてください。(図 - 1)
--

追いかけて (5分以内)

5. 押さえ(仕上げ)

・仕上げゴテを横方向に動かし、表面が平滑になるように押さえ、この時、コテムラが残らないようしっかり押さえてください。(図-2)

<施工のポイント>

- ・スチロールゴテを横方向に動かし、寒水石5厘が少し転がるよう、部分的にパターンをつけてください(図-1)。塗布量が多いと骨材が転がった跡が出来にくくなります。
- ・スチロールゴテの裏面全体を壁面に押し付けながら、寒水石5厘を転がし横方向の柄をつけてください。
- ・スチロールゴテの裏面は、ブラシや濡れウエスなどで常に、きれいに保つようにしてください。(汚れていると寒水石が転がりにくくなり、パターンが出にくくなります。)
- ・寒水石5厘が5cm程度、転がるようにパターン付けしてください。一回で寒水石が転がらない場合は、何回も横方向にスチロールゴテを動かし、寒水石を転がしてください。

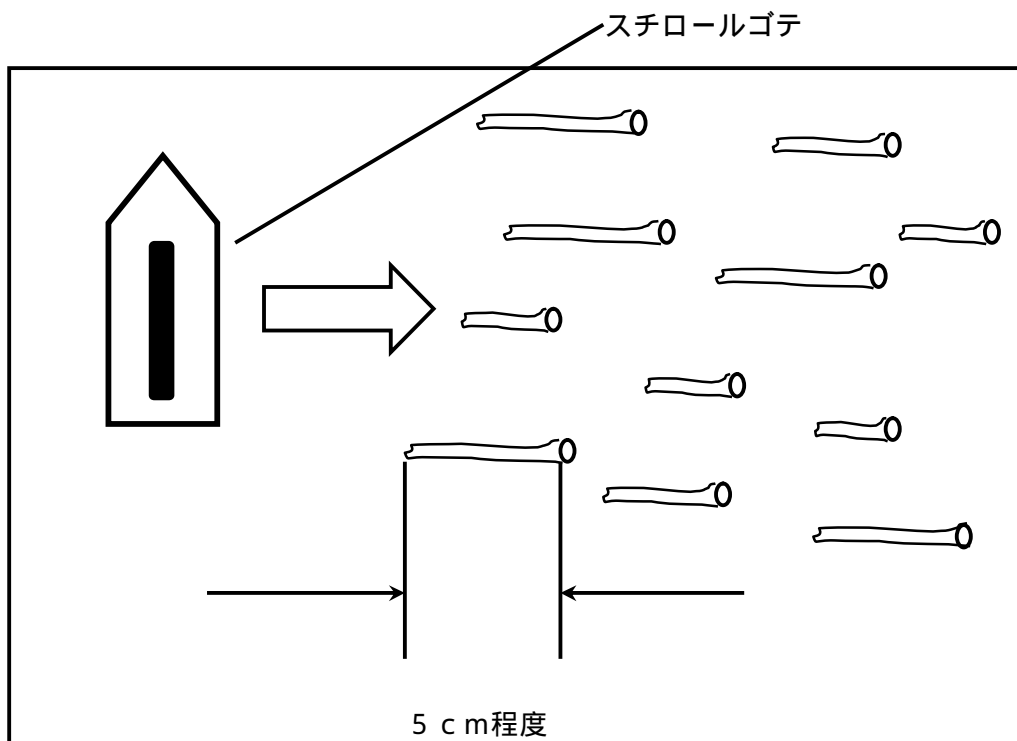


図 - 1

- ・表面を仕上げゴテで平滑になるよう横方向に押さえてください。(図-2)

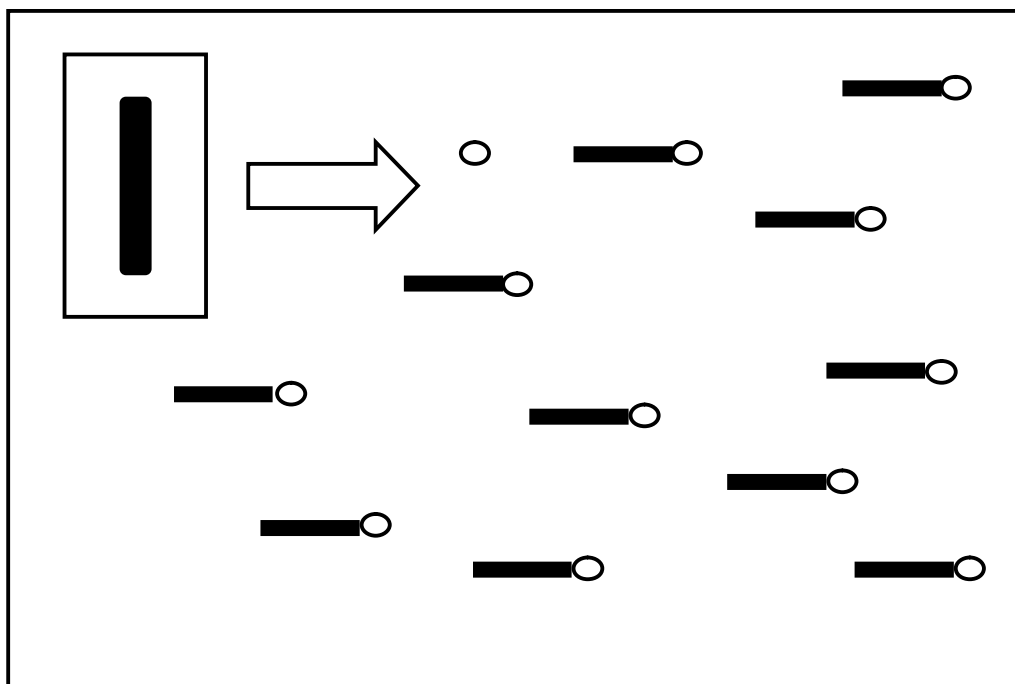


図 - 2

主材を吹き付けた後、スチロールゴテを使用しなくても、仕上げゴテを横方向に動かすことでパターン付けが出来ます。

主材上吹き塗りの塗布量が多くなりすぎないように塗布した後、コテの裏面全体を壁に強く押し当て(コテのエッジを使わない)横方向に何度もコテを動かし、骨材の転がった跡を付けます。この施工方法は、パターン付けのコツが必要である為、必ず練習し、見本板と同様な仕上がりになることを確認した後、本体施工にとりかかって下さい。

#### < 施工の注意事項 >

- ・コテはステンレス製のものを使用し、施工してください。  
鉄製の金ゴテを使用した場合、鉄錆の転写、削れた鉄粉の転写で塗膜が変色して見える(グレー色)恐れがあります。
- ・施工前に必ずコンパネ等で試し塗りを行い、仕上がり、乾燥性を確認して下さい。
- ・乾燥が比較的速いため、塗り継ぎ時間に注意して下さい。  
(特に外装の大面积を施工する場合は、作業人工や化粧目地による分割を検討して下さい。)
- ・塗板見本及び現場施工時のパターンの状態を、施主等の責任者の承認をいただいた上で施工を進めてください。
- ・気温 5 以下、湿度 80%以上、降雨、結露、強風などの条件下での施工は、硬化不良、ひび

割れ、ふくれなどの不具合が発生する可能性があります。

- ・シーラー、ジョリパット施工の際は臭気トラブルを防ぐ為、事前に近隣への案内等にご配慮ください。
- ・シーラー、溶剤、洗浄剤(灯油など)で有機溶剤が含まれる場合は特に、防毒マスクを着用してください。また、必要に応じて保護眼鏡や保護手袋を着用してください。
- ・施工器具(コテ、ローラー、吹き付けガン)などの洗浄水の、河川や側溝への廃棄は避けてください。
- ・商品ならびに施工に関するお問い合わせは最寄の当社支店までお願い致します。

以 上